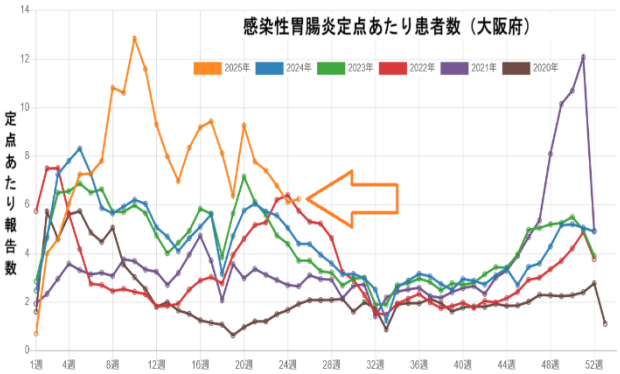
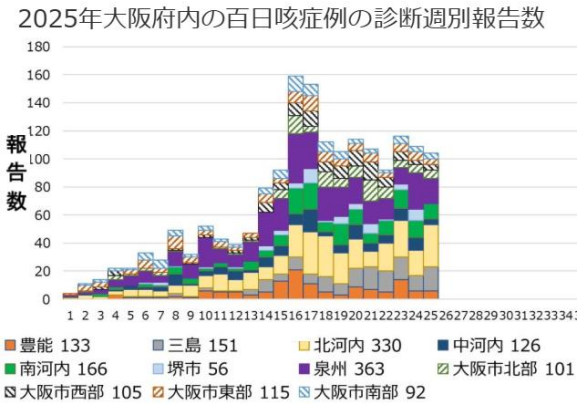
感染性胃腸炎が高水準/百日咳・伝染性紅斑が流行中



大流行の感染性胃腸炎ですが、大阪府では 6 月 22 日までの 1 週間で定点あたり 6.24 人(前週 6.11 人)と、ピーク時比べると減少しましたが、高いレベルでの流行はまだまだ続いています。体調には十分注意し、手洗い等を徹底してください。

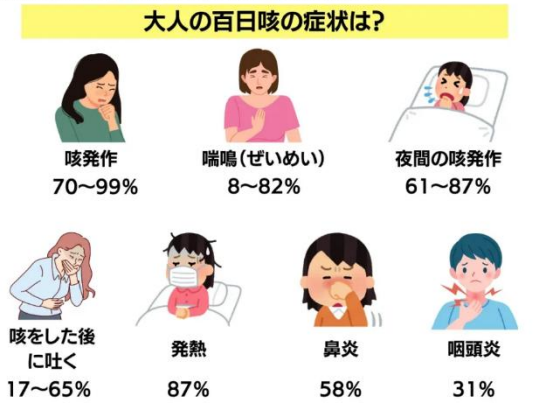
新型コロナウイルス感染症は 6 月 22 日までの 1 週間で全国で 1.00 人（前週 0.90 人）、大阪府 1.04 人（同 1.08 人）と、まだ例年みられる夏の流行は始まっていません。海外では中国や香港、台湾、シンガポール、タイなどで 5 月ごろから新変異株 NB.1.8.1 型の感染が拡大していましたが、それ以上の拡大はないようで、台湾では予想より早く終息するとの見通しです。

百日咳が大流行



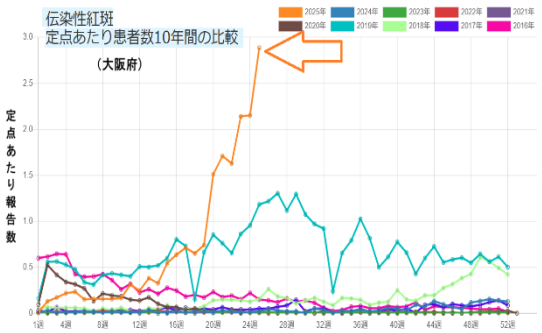
百日咳菌（Bordetella pertussis）による急性の気道感染症である百日咳の流行については 4 月にも取り上げさせていただきましたが、報告数は 6 月 15 日までの 1 週間で全国 2970 人（前週 3044 人、前年同時期 54 人）と大流行が続いています。百日咳は非常に感染力が強く、1 人の感染者が平均で何人にうつすかを表す「基本再生産数」は 16～21 と麻疹と同程度です。

ワクチンは乳幼児期に計 4 回接種されていますが、予防接種による免疫効果の持続は 5～10 年程度のため、小中学生の患者が多く、大阪府内の報告は中央値は 11 歳となっています。三種混合ワクチン（DPT：トリビック®）が 11-12 歳及び成人に接種が可能です（任意接種）。今後、学童期に対して百日咳含有ワクチンの定期接種が追加されることも検討されています。

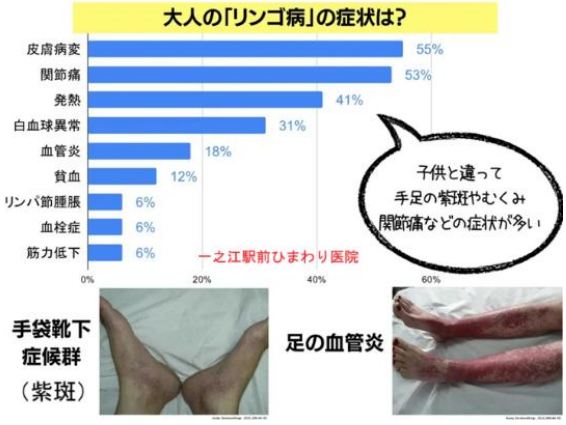


一方でワクチン未接種の乳児は死亡するリスクが高いので、日本小児科学会は生後 2 か月を迎えたら速やかに定期接種のワクチンを接種することを呼びかけています。

リンゴ病（伝染性紅斑）が流行



伝染性紅斑はヒトパルボウイルス B19 による感染症で、写真のように両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」とよばれています。小児を中心に流行する発疹性疾患ですが、大人も感染・発病し、図のように様々な症状をおこします。昨年 9 月ごろから増加し始め、12 月に取り上げさせていただきましたが、いよいよ本格的に流行しており、6 月 22 日までの 1 週間で 2.89 人（前週 2.15 人）で、前週に警報レベルの 2 を超えてもさらに増加しています。5 歳児が 19%を占めています。



ワクチンや抗ウイルス薬はありませんが、一度感染すると終生免疫が得られるため、一般的に再感染はしないといわれています。一方で妊娠中に感染すると、「胎児水腫」「腸の異常」「脳室拡大」などの胎児異常が 30.6%にみられ、胎児の 10.2%が死亡したということで、妊婦は特に注意する必要があります。

2025 年 6 月 28 日　　産業医　井戸正利